

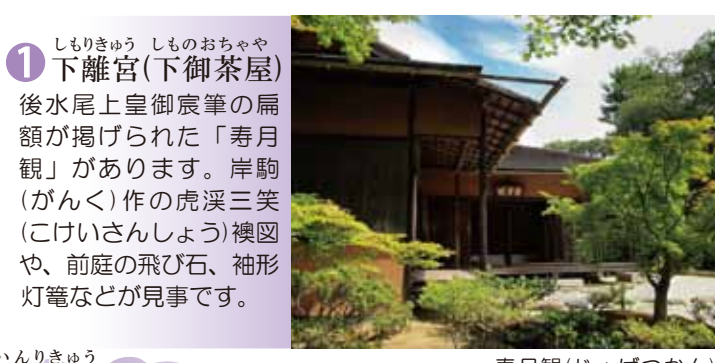
修学院 北白川



後水尾上皇が造営した、王朝文化の美意識の溢れる「修学院離宮」や、北隣には京都御所の鬼門を守る赤山禅院、ならびに門跡寺院の曼殊院、山荘の詩仙堂など、数多くの名所があることで知られる修学院地区は、比叡山の西麓の風光明媚な地域です。比叡山に連なるこの付近の峰々には、戦国期にいくつかの山城が築かれました。また、この山裾には縄文時代から人が住み、生活が営まれた地域もありました。赤山禅院、曼殊院から小説『宮本武蔵』でよく知られる一乗寺地区を巡り、北白川地域まで、沿道の寺社や景観を散策するコースを紹介します。

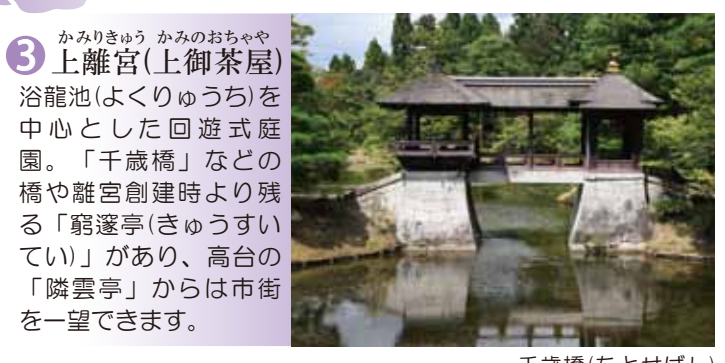
修学院離宮と後水尾上皇

17世紀中頃、後水尾上皇により造営された借景式庭園の離宮。上中下の三つの離宮(御茶屋)からなり、借景となる山林や各離宮を結ぶ松木道、周囲に広がる田畑などにより構成されています。後水尾上皇は女中に扮して造営中の離宮を訪れて自ら指示を行ったと言われ、江戸幕府が朝廷への圧力を強化する中、反発して院政を復活させたことなどで知られています。一方で詩歌等に造詣が深く、自らの和歌を集めた『蘭集(おうそうしゅう)』などの著作がある文化人でもありました。
※拝観する場合は、宮内庁京都事務所窓口や郵送などで申し込みをする必要があります。



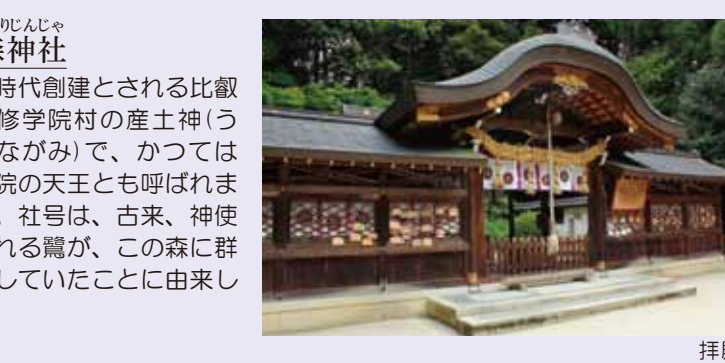
下離宮(下御茶屋) 後水尾上皇御宸筆の扁額が掲げられた「寿月観」があります。岸駒(がんく)作の虎深三笑(こけいさんしやう)模図や、前庭の飛び石、袖形灯籠などが見事です。

2 中離宮(中御茶屋) 当初は光子(てるこ)内親王の朱宮(あけのみや)御所として造営。「天下の三棚」の一つ「霞棚」のある「客殿」や、「楽只軒(らくしけん)」が建っています。



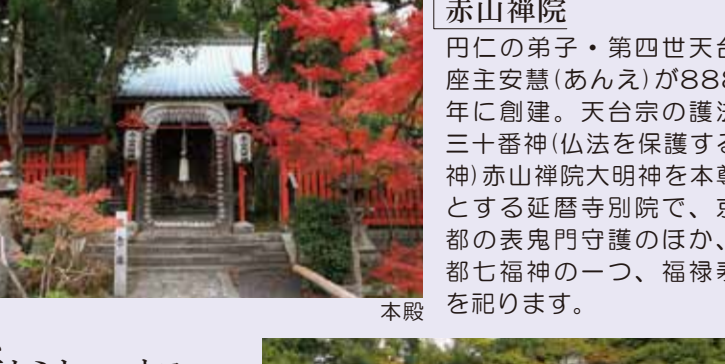
客殿 千歳橋(ちとせはし)

3 上離宮(上御茶屋) 浴龍池(よくりゆうち)を中心とした回遊式庭園。「千歳橋」などの橋や離宮創建時より残る「窮達亭(きゆうたつせい)」や、「楽只軒(らくしけん)」が建っています。



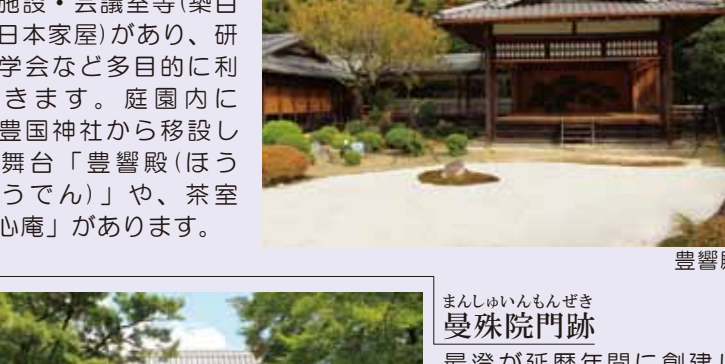
千歳橋(ちとせはし)

鷹森神社 平安時代創建とされる比叡山麓修学院村の産土神(うぶすながみ)で、かつては修学院の天王とも呼ばれました。社号は、古来、神使とされる鷲が、この森に群をなしていたことに由来します。



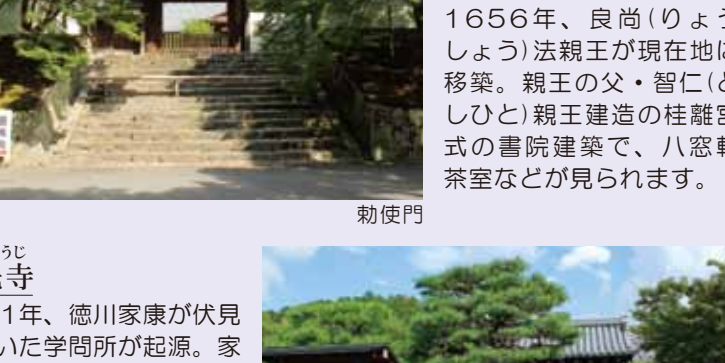
拝殿

関西セミナーハウス 宿泊施設・会議室等(築百年の日本家屋)があり、研修や学会など多目的に利用できます。庭園内には、豊国神社から移設した能舞台「豊豊殿(ほうほうでん)」や、茶室「清心庵」があります。



豊豊殿

曼殊院門跡 最澄が延暦年間(824-828)に創建した御堂を起源とし、1656年、良尚(りやうしょう)法親王が現在地に移築。親王の父・智仁(としひと)親王建造の桂離宮式の書院建築で、八窓軒茶室などが見られます。



勅使門

村山たか女 たか女は井伊直弼や腹心の長野主膳の寵愛を受けて、京都にいる倒幕派の情報を江戸に知らせ、安政の大獄に加担しました。倒幕派に捕まり三条大橋で晒されるも、命を救われた後、金福寺で出家して晩年を過ごし、圓光寺の墓で眠っています。舟橋聖一著『花の生涯』のヒロインとして有名です。



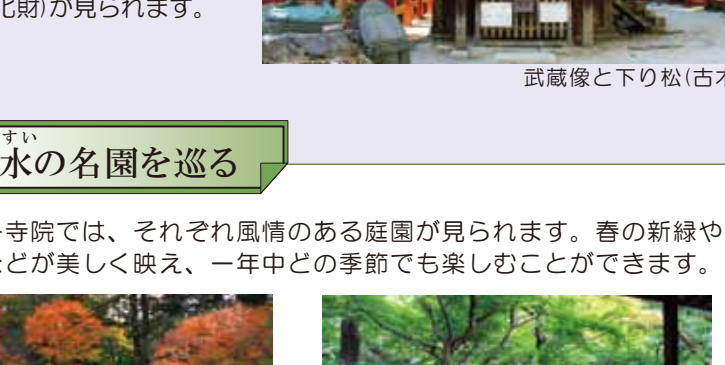
たか女ゆかりの品々(金福寺)

史跡 詩仙堂 1641年、徳川家康側近の文人石川丈山(じやうざん)が隠居用に建てた山荘(国指定史跡)。中国の36詩人の肖像画を掲げた「詩仙の間」が寺号の由来です。丈山は裏山にある墓(国指定史跡)に眠ります。



武蔵像と下り松(古木)

狸谷山不動院 明治時代の廃仏毀釈で荒廃したが、1947年に再興。交通安全・厄除祈願で知られる不動院で、250段の石段を登ると、平安京の鬼門守護神として桓武天皇が安置したと伝わる叱怒鬼(たぬき)不動明王が、本堂に祀られています。



本堂

金福寺 864年、安慧が創建。松尾芭蕉ゆかりの芭蕉庵や、与謝蕪村、松村呉春ら文人たちの墓があります。また安政の大獄(1858)で井伊直弼の密偵であった村山たか女が晩年を過ごした寺としても知られます。



芭蕉庵

曼殊院書院庭園(国指定名勝) 海原に見立てた白砂に島を配しており、小堀遠州の作といわれています。



曼殊院書院庭園(国指定名勝)

圓光寺「十牛(じゅうぎゅう)の庭」 禅の悟りの道を牛で表した「十牛図」を主題とした庭と橋龍池(せりゅうち)が有名です。



圓光寺「十牛(じゅうぎゅう)の庭」

詩仙堂庭園 山の斜面を利用した、春のサツキが見事な石川丈山作の回遊式庭園。

詩仙堂庭園

金福寺庭園 サツキの築山と白砂で構成され、茅葺屋根の芭蕉庵を望む枯山水庭園。

金福寺庭園

一乗寺の各寺院では、それぞれ風情のある庭園が見られます。春の新緑や秋の紅葉などが美しく映え、一年中どの季節でも楽しむことができます。

一乗寺の各寺院では、それぞれ風情のある庭園が見られます。

一乗寺村の産土神。一乗寺下がり松の古木や宮本武蔵の像があり、毎年5月の神幸祭では、先頭を行く「柏」「龍」「菊」の三基の剣鋒差し(市登録無形民俗文化財)が見られます。

一乗神社

枯山水の名園を巡る

枯山水の名園を巡る

史跡 石川丈山墓

史跡 石川丈山墓

一乗寺跡(石碑)

一乗寺跡(石碑)

西浦畑児童公園

西浦畑児童公園

野田児童公園

野田児童公園

京都造形芸術大学

京都造形芸術大学

京都造形芸術大学 芸術劇場

京都造形芸術大学 芸術劇場

市バス(修学院駅前)

市バス(修学院駅前)

市バス(修学院道)

市バス(修学院道)

市バス(上終町)

市バス(上終町)

市バス(岩倉線)

市バス(岩倉線)

市バス(松尾線)

市バス(松尾線)

市バス(西ノ京線)

市バス(西ノ京線)

市バス(金閣寺線)

市バス(金閣寺線)

市バス(北山線)

市バス(北山線)

市バス(三條線)

市バス(三條線)

市バス(大宮線)

市バス(大宮線)

市バス(新町線)

市バス(新町線)

市バス(新大塚線)

市バス(新大塚線)

市バス(池袋線)

市バス(池袋線)

市バス(有楽町線)

市バス(有楽町線)

市バス(丸の内線)

市バス(丸の内線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(東横線)

市バス(東横線)

市バス(山手線)

市バス(山手線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

市バス(有田線)

修学院 北白川



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

修学院 北白川周辺の発掘調査

修学院 北白川は京都盆地北東部で比叡山の西南麓に位置し、北白川地区は、白川花崗岩類からなる扇状地にあたります。白川通が南北に通じ、東西にはかつて京と近江を繋ぐ古道・志賀越道（通称・山中越え）が、今も主要道路として通っています。北白川地区は縄文時代の遺跡が多くあることで知られています。上終（かみはて）町遺跡や小倉町別当町遺跡などがその代表で、遺跡群は岡崎にかけて広がっており、それらをまとめて北白川縄文遺跡群と総称されています。また、北白川大堂町・堂ノ前町には飛鳥時代の建物跡や塔跡が発掘調査で見つかった北白川廃寺があります。付近一帯は近年の開発が進み、寺院の面影はなく、寺院跡を示す地名のみが残っています。また東側の山中には中世の山城跡が残り、瓜生山の山頂付近には北白川城跡があります。修学院地区では、修学院離宮の東方山中に修学院雲母（きらら）城跡などが今も残っています。

1 上終町遺跡（縄文時代）

1991年の発掘調査で縄文時代早期（約8000年前）の竪穴住居跡と縄文土器が見つかりました。住居跡は浅い楕円形の窪みの周りに柱穴を巡らし、入り口が南側にあつたと考えられています。縄文土器は土器の表面に線を彫った棒を転がして山形文様や斜格子形文様などを付ける「押型文土器」の破片が多数見つかりました。住居跡と土器の発見により、縄文時代早期の人々の生活の一端を明らかにすることができました。竪穴住居跡は原寸大の型取り模型を京都市考古資料館に展示しています。



発掘調査の様子



縄文時代早期の竪穴住居跡



出土した押型文土器（縄文時代早期）

2 北白川廃寺（飛鳥時代）

1934年の区画整理事業の工事中に発見され、発掘調査が行われました。地名をとって北白川廃寺と呼ばれています。現在まで20回近くの発掘調査が行われ、白川通をはさんで東側に金堂と考えられる瓦積基壇の建物跡と西回廊跡、西側に瓦積基壇を石積基壇に修復した塔跡が発見されています。全体の伽藍配置は不明ですが、これまでの発掘調査の結果から西側の塔跡と東側の金堂跡は別の寺院跡ではないかとする説もあります。



昭和九年(1934)に見発見された金堂の瓦積基壇跡



金堂の回廊基壇跡



金堂の回廊基壇の礎石掘え付け状況



心礎（塔の中心柱の礎石）を掘え付ける穴



金堂跡から出土した軒丸瓦（飛鳥時代）



塔跡石積基壇下に残る当初の瓦積基壇跡



塔跡の石積基壇（中央の穴は心礎のあったところ）



塔跡から出土した軒丸瓦（飛鳥時代）

4 小倉町別当町遺跡（縄文時代～飛鳥時代）

小倉町別当町遺跡では1981年・1985年・1994年の北白川小学校の改築に伴う発掘調査で、飛鳥時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが見つかると、北白川廃寺と同じ時期の集落跡として注目されています。1994年の発掘調査では無文銀銭が、京都市内では初めて出土しました。また小学校校舎内には周辺で採集された土器や瓦が展示されています。



飛鳥時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡



飛鳥時代の竪穴住居跡



出土した無文銀銭（飛鳥時代）



北白川小学校校舎内に展示してある遺物（縄文時代～平安時代）

5 北白川城跡（戦国時代）

大永七年（1527）に細川高国が築城した山城跡です。瓜生山城あるいは將軍山城・將軍地藏山城ともいい、総称して北白川城跡と呼ばれています。瓜生山頂周辺の広範囲に曲輪や、本丸跡とみられる平地や堀跡などの遺構が点在し、良好に残っています。また、細川高国により戦勝を祈願して將軍地藏が勧請されましたが、宝暦十二年（1762）に移転され、現在は狸谷山奥ノ院裏に古墳状の塚跡と石積みの祠跡が残るのみです。



瓜生山の山頂に残る本丸跡の平地



本丸東端にある將軍地藏の祠跡

6 修学院雲母城跡（戦国時代）

修学院離宮東方の山中に築かれた戦国時代の山城跡です。雲母坂の途中にあり中雲山と呼ばれている周辺に土塁跡や本丸跡とみられる平地や石垣が残っています。



残存する土塁跡



本丸跡とみられる平地



二段から三段に積まれた石垣



修学院 北白川に関する発掘調査地の位置図



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館（月曜が祝日の場合は翌日）
開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

